

持続可能な社会を実現するために

市や、市内事業者・団体、個人の活動など、さまざまな所で持続可能な社会を実現するための取り組みが展開され、SDGsにつながっています。ここでは、地域に根差す事業者や団体の優れた取り組みの事例を紹介します。

市では、今、そして未来の世代がずっと幸せに暮らすためのこうした取り組みを支えるとともに、SDGsを積極的に推進していきます。

いつまでも環境に優しい町田でいられるように



事業者の取り組み

まちだエコ宣言

まちだエコ宣言は、市内のお店や事業者が、省エネ設備の導入やエコドライブの実施など環境に配慮した活動を行うことを宣言し、市がその活動をPRする制度です。

緑のカーテンづくり(=写真右上)や定時退社日を設定する等、環境配慮を業務の一部として取り入れているだけでなく、再生可能エネルギーの導入などを積極的に進めている事業者もいます。

近年は、環境に配慮しながら経済活動を行うことが求められるため、官民連携で社会課題の解決を目指す取り組みを推進しています。3月8日～28日に、まちだエコ宣言事業者の町田マルイ・町田モディと市の共催で「まちだサステナビリティフェス」を開催しました(=写真右下)。

この制度では民間企業の強みと行政の強みを生かし、持続可能な社会構築に向けて、環境分野だけでなくさまざまな分野での連携を図っていきます。



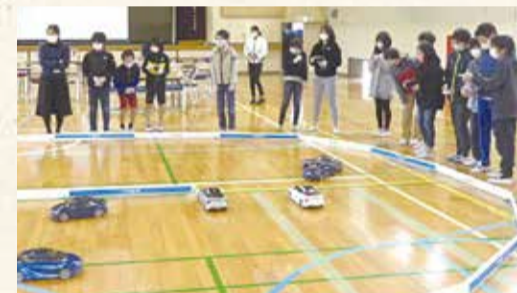
【問】 環境・自然共生課 ☎ 724・4391

企業と市の協働

次世代エネルギー推進

市では、次世代エネルギーの推進を目的として、水素エネルギーの出前授業を開催しています。職員による温暖化をテーマとした授業や、燃料電池自動車の試乗体験を開催してきました。

環境について考えるきっかけづくりとして、2020年度はトヨタモビリティ東京(株)、メガウェブ[(株)アムラックストヨタ]と連携し、楽しみながら水素エネルギーを学べる燃料電池ラジコンカー体験を開催しました。



みんなが健康に暮らせるように



民間の福祉団体等の活動

フードバンクまちだ

福祉団体や事業者が協力し、市民や企業等からまだ食べられる余剰食材の寄付を募り、行政関係機関を通して、食料の確保に困っている世帯や子ども食堂等に食材を提供するフードバンク活動を行っています。



地域の支え合いの新しい仕組みとして「誰もが安心して幸せに暮らせるまち」を目指して活動しています。

【問】 (社福) 町田市社会福祉協議会 ☎ 722・4898

おうちでごはん事業

地域ボランティアにより、ひとり親家庭の子どもと保護者に、手作りのお弁当を届ける事業です。保護者の家事負担を減らし、お弁当を一緒に食べながら親子の会話を増やしてもらうことが目的です。事業の運営費は、ふるさと納税による寄付を活用しています。事業を通して「子育て世帯を、みんなで支え合う地域社会」の実現を目指します。



市内のさまざまな活動が17のゴールに向かって未来への種まきを行っています

今、わたしたちにできること

SDGsと聞くと、地球温暖化や貧困・飢餓等の世界の問題をイメージするかもしれませんが、今回の取り組み紹介のように、皆さんの生活に身近な取り組みがSDGsの課題解決へとつながっていることがたくさんあります。ご飯を残さない、こまめな節電等、日常の中の行動がどのSDGsのゴールに繋がっているか、今回の記事をきっかけに考えてみませんか。みんなで持続可能な社会を実現しましょう。

例えば自宅で備蓄している防災リュックの中身をチェックして、食べきれない食材をフードバンクに寄付することが、困っている人たちの助けになるし、食品ロスが減ってごみの削減にもなるんだね! 自分にもできること、考えてみよう!

